

# 性格と小説を読んだ後の感情状態の関連性

## The relations between the personality and the feelings state after the readers read the novels

三和義秀\*

*Yoshihide MIWA*

### Abstract

In this study, I measured the personality of 48 subjects using the Big Five Personality Inventory (BFPI) and Maudsley Personal Inventory (MPI) and next used Multiple Mode Scale on the same subjects to measure feelings state after the subjects read 3 short novels which drew tears from the readers, after which I analyzed the relations between the personality and feelings state using the single Correlation Analysis and the Multiple Regression Analysis.

Although the results were different for each short novel, there was some statistically significant correlation between the personality and feelings state after the subjects read the short novels. In particular, a statistically significant correlation was observed between Conscientiousness and Boredom, Intellect and Boredom, Intellect and Concentration.

In addition, I classified the subjects into 2 groups based on Extraversion and Neuroticism of MPI, after which the comparison of the mean of the feelings state each of the 2 groups was performed using t-test. As a result, the tendency that a difference of Neuroticism affected the mean of the feelings state than Extraversion was observed.

---

\* 愛知淑徳大学人間情報学部

## 1. 序 論

近年、小説のような感情を得るための文学的なテキストを対象として、「感情による図書検索システム」<sup>1)</sup>や印象 (mood) を手がかりとして図書を検索できる「whichbook.net」<sup>2)</sup>など、感性を検索の手掛かりとする実用的な情報検索システムが開発されている。

このような検索システムには主観性という本質的な問題があるが、特に文学的なテキストを対象とした感情の主観性に関する実証的な研究は少ない。本研究では、短編小説を読んで喚起される感情を検索の手掛かりとする情報検索システム設計の基礎研究として、感情の主観性と個人差に焦点をあてる。具体的には、その主観性の要因として、性格 (personality) を取り上げ、性格と短編小説を読んだ後の感情状態との関連性を考察する。

先行研究として、三和は130名の被験者と6点の短編小説を素材とした調査から、性格と短編小説を読んで喚起される感情状態の一部には有意な相関があることを示している<sup>3)</sup>。そして、その関係式を用いて性格から小説を読んだ後の利用者個々の感情状態を予測する図書検索システム実現の可能性を示唆している。

感情は、異なった心理学者によって様々な方法で定義される、複雑で多面的な人間の心の動きである。感情は感性の下位概念であり、感性は物事を感じ取る際に生じる心の動き、気持ちの動きを示す「感情(feeling)」と、強く心に刻み込まれた刺激が後々まで残っている状態を示す「印象(impression)」に分けられる。また、感情は明確な原因によって起こり、激しい心の動きと心拍数の上昇などの生理的喚起をともなう「情動(emotion)」、及び原因が特定されるとは限らず、ある期間持続する感情を示す「気分(mood)」から構成される<sup>4)</sup>。

小説のような文学的テキストの感情特徴として、「感情状態」と「感情価」がある。感情状態とは、読者が自分の気持ちを内省することで得られる主観的な測度であり、自己認知である。

また、感情価とは読んだ経験のあるテキストに付随するイメージであり、読者がそのテキストにもつ客観的な測度である。<sup>1) 5)</sup>そして、感情状態と感情価には正の相関があることが示されている<sup>5)</sup>。

一方、性格 (personality) について、オウルポート (Allport, G.W.) は、“個人のうちにおいて、その個人に特徴的な行動や思考を決定する心理身体的体系の力動的体制である。”<sup>6)</sup>という定義を示している。また、アイゼンク (Eysenck, H.J.) は“性格は遺伝と環境によって決定される実際の行動パターン、あるいは潜在的な行動パターンの総体であり<sup>7)</sup>、環境に対する独自の適応を決定する組織体である”<sup>8)</sup>と定義し、性格とは行動の個人差をもたらす基礎的な実体であるとしている<sup>9)</sup>。

これらの定義が示すように、性格は人間の行動や思考、また環境への適応に対して影響を及ぼし、その人を特徴づける個々の行動傾向である。

本研究では、短編小説を読んだ直後の感情状態を対象として、主要5因子性格検査の結果から性格と感情状態との関連性を調べる。また、特に外向性-内向性と神経症傾向-情緒安定性は感情との関連性が深いとも言われ<sup>10)</sup>、モーズレイ性格検査の外向性 (extraversion) と神経症的傾向 (neuroticism) を基にしたカテゴリーを対象とする考察を試みる。

## 2. 方 法

### 2. 1 素 材

本研究では、同じ感情的特性を示す素材を対象とする。そこで、「涙がこころを癒す短編小説集」を用い、『99のなみだ』<sup>11)</sup>から「十五年目の祝福」、「七夕の雨」及び「おかえりなさい」の3点の短編小説を選定した。なお、それぞれの素材の読書時間は10分から15分である。

性格と小説を読んだ後の感情状態の関連性：涙の出る短編小説を素材として

2. 2 感情状態と性格の測定

2. 2. 1 感情状態の測定

短編小説を読む前と読んだ後の感情状態は、質問紙による心理的尺度を用いて自己報告形式で測定した。その尺度として、寺崎らの「多面的感情状態尺度(multiple mood scale)」<sup>12)</sup>を用いた(表1)。

測定方法として、多面的感情状態尺度の8つの尺度(抑鬱・不安、敵意、倦怠、活動的快、非活動的快、親和、集中、驚愕)に属する10の

項目(形容詞)の状態レベルとして「まったく感じていない」を1点、「あまり感じていない」を2点、「少し感じている」を3点、「はっきり感じている」を4点とする4件法を採用した。採点は、回答された状態レベルの1点から4点に対して、表1に示した形容詞の因子負荷量をそれぞれ掛けた値の総和を基本感情の「評定値」とした。また3点の素材に対する感情的な特性を示す指標として、素材を読む前の評定値と読んだ直後の評定値の差を「変化値」とした。

表1. 多面的感情状態の尺度と項目<sup>12)</sup>

感情状態	尺度	項目
否定的	抑鬱・不安	気がかりな(.70/.73) 引け目を感じている(.66/.48) 不安な(.65/.71) 悩んでいる(.64/.73) 自信がない(.62/.67) くよくよした(.50/.71) 悲観した(.50/.39) 沈んだ(.41/.60) ふさぎこんだ(.38/.51) 物悲しい(.36/.58)
	敵意	敵意のある(.52/.70) 攻撃的な(.48/.62) 憎らしい(.47/.76) 挑戦的な(.37/.14) うらんだ(.36/.67) むっとした(.31/.77) かつとした(.32/.71) おこった(.27/.67) 気分を書した(.21/.46) むしゃくしゃした(.14/.40)
	倦怠	つまらない(.62/.38) 不機嫌な(.59/.08) ばからしい(.58/.23) 疲れた(.58/.58) 退屈な(.55/.34) だるい(.40/.58) 無気力な(.35/.50) ぼんやりした(.21/.59) ぼやぼやした(.07/.53) 無関心な(.20/.26)
肯定的	活動的快	活気のある(.75/.85) 元気いっばいの(.74/.80) 気力に満ちた(.73/.84) はつらつとした(.60/.64) 快調な(.52/.36) 気持ちの良い(.48/.40) 快適な(.48/.38) 機嫌の良い(.47/.47) 陽気な(.45/.58) さわやかな(.36/.42)
	非活動的快	のんびりした(.68/.74) ゆっくりした(.65/.79) のどかな(.62/.70) おっとりした(.60/.63) のんきな(.58/.63) やわらいだ(.58/.53) 平静な(.47/.55) 気長な(.47/.36) ゆったりした(.46/.55) ゆるんだ(.37/.37)
	親和	いとおしい(.84/.69) 愛らしい(.81/.60) 恋しい(.77/.69) すてきな(.74/.60) 好きな(.69/.67) かれんな(.69/.58) あこがれた(.65/.64) うっとりした(.61/.58) かわいらしい(.54/.47) 情け深い(.33/.38)
中性的	集中	慎重な(.75/.72) ていねいな(.58/.64) 丁重な(.52/.58) 思慮深い(.50/.54) 用心深い(.49/.46) 懸命な(.43/.38) 注意深い(.43/.57) 真剣な(.33/.47) 鋭敏な(.27/.46) 緊張した(.31/.31)
	驚愕	びっくりした(.83/.46) びっくりとした(.77/.46) 驚いた(.66/.49) 動揺した(.58/.37) はっとした(.55/.46) ぞくぞくした(.50/.26) おろおろした(.47/.39) どきどきした(.44/.28) うろたえた(.43/.36) ぼうぜんとした(.38/.35)

注) ( )内は男性/女性の場合の因子負荷量

2. 2. 2 性格の測定

性格の測定として、主要5因子性格検査とモーズレイ性格検査の2種類を用いた。

1) 主要5因子性格検査

主要5因子性格検査(Big Five personality inventory:以後、Big Fiveと記す)は、「外

交性」、「協調性」、「良識性」、「情緒安定」及び「知的好奇心」の5つの尺度で構成される。この検査の日本版は、村上らによって表2のように尺度名と意味が示されている<sup>13)</sup>。

Big Fiveは70の質問項目から構成され、回答は「はい」「いいえ」のどちらかを選択する。

また青年期 (12~22歳)、成人前期 (23~39歳)、成人中期 (40~59歳)、及び成人後期 (60歳以上) の4つに年齢を区分して標準化することで信頼性と妥当性を高めている。

採点では、各尺度に該当する質問項目の番号が「はい」と「いいえ」の別で定められており、それに従って採点した素点を4つの世代別標準換算表に従って標準化を行う<sup>13)</sup>。

表 2. Big Five の尺度と意味<sup>13)</sup>

尺 度	意 味
外 交 性	にぎやかで、元気がよく、話好き、勇敢で、冒険的、積極性のある性格。逆の場合は、おとなしく、無口で、引っ込み思案、臆病で、不活発な性格。
協 調 性	温かく、誰にでも親切な、愉快で、人情のあつい、気前のよい、協調性の高い性格。逆の場合は、不親切で、冷たく、利己的、疑い深い、非協力的な、協調性に欠ける性格。
良 識 性	責任感があって、仕事や勉強に良心的・精神的に取り組む、勤勉な性格。逆の場合は、物事への取り組みが中途半端で、根気がなく、気まぐれで、浪費癖がある、無責任で、いい加減な性格。
情緒安定性	気分が安定していて、不平不満がなく、気楽で、しっと深くない、理性的な性格。逆の場合は、気分が不安定で、悩みやすく、神経質で、しっと深く、感情的になったり、怒りっぽい性格。
知的好奇心	好奇心があって、知識の範囲が広く、物事を分析したり、考えたりする、思慮深い、創造的、知性的な性格。逆の場合は、好奇心に乏しく、物事を分析するのが苦手で、頭がすぐに混乱しやすい、知的好奇心に乏しい、素朴で、洗練されていない性格。

2) モーズレイ性格検査

モーズレイ性格検査 (Maudsley Personality Inventory : 以後、MPIと記す)<sup>14)</sup>は、アイゼンクによって開発された質問紙性格検査で、「外向性(extraversion)-内向性(introversion)」及び「神経症的傾向(neuroticism)」の2つの性格特性を測定することを意図した性格検査

である。またMPIには、被験者が正直に回答したかどうかについて調べる「虚偽発見尺度 (lie scale)」もある (表3)。

本研究で用いた日本語版MPIは、外向性-内向性尺度24項目、神経症傾向尺度24項目に加えて、虚偽尺度20項目、中立項目12項目の計80項目で構成されている。

表 3. MPI の尺度と特徴<sup>14)</sup>

尺 度	特 徴
外 向 性 ( E 尺 度 )	社会的・開放的で動作や感情の表現にためらいのない傾向のことをいい、いわゆる人づきあいのよい陽気な性格をあらわし、ときはずみで行動する衝動的な特徴を示す。それと反対に引っ込み思案で人とのつきあいを避けるような特徴を内向性という。内向型の人は落ち着いていて、内省的で秩序だった生活様式を好む。
神経症的傾向 ( N 尺 度 )	情動 (感情・情緒) の過敏性を示す傾向であって、わずかなストレスに対しても容易に神経症的混乱を引き起こすような人にみられる性格特徴であり、いわゆる神経質で落ち着きのない、いつでも緊張している人がらと印象づけられる、情緒不安定な性格特徴。
虚偽発見尺度 ( L 尺 度 )	被験者がどの程度まで自分を実際以上によく見せようとして回答しているかを調べる尺度であって、質問に対する回答の不正直さを検出するものである。自己防衛的態度の強い人は高くなる傾向がある。

2. 3 被験者・時期

本研究の被験者数は、48名 (男性 5 名、女性 43名) で、全体の平均年齢は21.1歳である。調査は、2010年10月から11月に集団実施で行った。

2. 4 手続き

48名の被験者に対してBig Fiveによる性格検査を実施し、その数日後に同じ被験者に対してMPIによる性格検査を行った。またそれと

## 性格と小説を読んだ後の感情状態の関連性：涙の出る短編小説を素材として

は独立して、同じ被験者に対して、3点の素材について読む前と読んだ後の感情状態を多面的感情状態尺度で測定した。

性格の測定では、村上宣寛・村上千恵子著のBig Five用紙を配布し、70の質問に対してあまり深く考えないで、感じた方の答えを「はい」、「いいえ」の2件法で選ぶように求めた。また、MPIでは「モーズレイ性格検査(MPI) H・J・アイゼンク著(誠信書房)」の用紙を配布し、自分の性質にあてはまれば「はい」、あてはまらなければ「いいえ」、どちらも決められなければ「？」を○で囲むように求めた。

一方、感情状態の測定では、それぞれ3点の素材(短編小説)の黙読によって、被験者に対して感情の自己生成を促した。次に表1に示した多面的感情状態尺度の8つの基本感情に10ずつ属する80の形容詞を用い、Webアンケート収集システムを通して、短編小説を読む前と読んだ直後の感情状態について4件法で回答を求めた。なお、それぞれの素材に対する感情状態の測定は1週間以上の間隔をおいて実施した。

### 2. 5 分析方法

Big FiveとMPIの性格検査の採点を行った。その結果、Big Fiveで3名、MPIで2名の被験者について、その妥当性尺度の採点結果から受験態度に問題があると判定して分析対象から除外した。

3点の素材の感情的な特性を示すために、基本感情の変化値の平均値と標準偏差を図表に示した(表4、図1)。またBig Fiveの5尺度及びMPIの2尺度と、3点の素材に対する感情状態の変化値を対象としてPearsonの積率相関係数を求める単相関分析を行った。また、性格検査の尺度は理論的には互いに独立であり、擬似相関はないはずである。しかし、性格と感情状態の関連性が直接的な関係なのか、または他の相関をもつ尺度を介しての影響なのかを確認するために、感情状態の8つの尺度を目的変数、Big FiveとMPIの性格尺度を説明変数として重回帰分析も試みた。

また、MPIの外向性と神経症的傾向の尺度の得点を基準として被験者をそれぞれ2つのグループに分類し、両グループ間の感情状態の変化値の差について調べた。

## 3. 結果

### 3. 1 素材の感情的特性

3点の素材は、次のような共通の感情的特性を示した(表4、図1)。

- 1) 「いとおいしい」や「愛らしい」などの形容詞で表現される「親和」の感情状態を強める。
- 2) 「つまらない」や「不機嫌な」などの形容詞で表現される「倦怠」の感情状態を弱める。

表4. 3点の素材の感情的特性

感情状態	尺 度	十五年目の祝福 (N=48)		七夕の雨 (N=46)		おかえりなさい (N=48)	
		平 均	標準偏差	平 均	標準偏差	平 均	標準偏差
否 定 的	抑鬱・不安	-.60	3.25	.85	2.87	-.95	3.45
	敵 意	-.74	2.56	-.62	1.75	-.42	2.24
	倦 怠	<b>-2.18</b>	2.31	<b>-1.95</b>	2.17	<b>-1.42</b>	2.27
肯 定 的	活 動 的 快	-.82	3.51	-1.47	2.80	-.63	2.76
	非活動的快	-.73	2.52	-1.57	2.92	.01	2.87
	親 和	<b>4.75</b>	4.15	<b>3.12</b>	3.68	<b>2.80</b>	3.57
中 性 的	集 中	-.60	1.78	-.16	2.31	-.19	2.51
	驚 愕	1.14	1.95	1.48	1.87	1.00	1.99

注) 太字は各素材の平均の中で絶対値の大きい上位2つの値を示す。

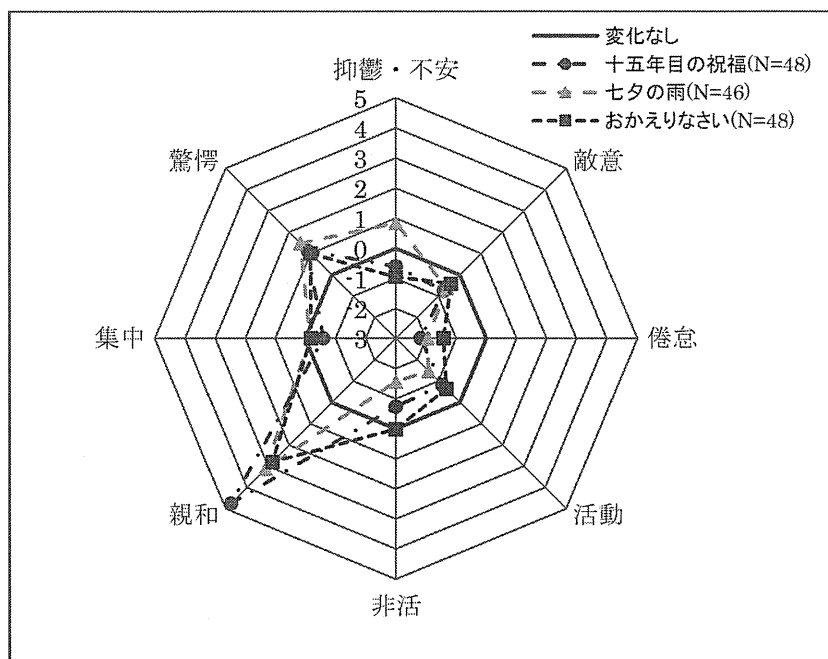


図1. 3点の素材の感情的特性を示すレーダーチャート

3. 2 性格

Big FiveとMPIの尺度は、理論的には互いに独立である。しかし、重回帰分析での多重共線性を考慮し、本研究の目的ではないが、性格の尺度間の相関を調べてみた。その結果、Big

Fiveの外向性と協調性との間に $r=.39$  ( $p<.05$ )、良識性と知的好奇心との間に $r=.39$  ( $p<.05$ )の有意な正の相関があった(表5)。また、MPIでは神経症的傾向と虚偽発見尺度との間に $r=-.32$  ( $p<.05$ )の有意な負の相関があった(表6)。

表5. 主要5因子性格尺度間の相関

	外向性	協調性	良識性	情緒安定性	知的好奇心
外向性	1	.39*	-.05	.01	.214
協調性		1	.27	.11	.23
良識性			1	.02	.39*
情緒安定性				1	.07

注) N = 43 \* p < .05

表6. MPIの尺度間の相関

	外向性	神経症的傾向	虚偽発見尺度
外向性	1	.00	-.09
神経症的傾向		1	-.32*

注) N = 43 \* p < .05

性格と小説を読んだ後の感情状態の関連性：涙の出る短編小説を素材として

次にBig FiveとMPIの尺度間の相関を調べた。その結果、Big Fiveの外向性とMPIの外向性との間に $r=.82$  ( $p<.01$ )、協調性とMPIの外向性との間に $r=.42$  ( $p<.01$ )、協調性と虚偽発見尺度との間に $r=.34$  ( $p<.05$ )の有意な正の相関が

あった。一方、良識性と神経症的傾向との間に $r=-.31$  ( $p<.05$ )、情緒安定性と神経症的傾向との間に $r=-.62$  ( $p<.05$ )の有意な負の相関があった(表7)。

表7. Big FiveとMPIの尺度の間の相関

BigFive \ MPI	外向性(E)	神経症的傾向(N)	虚偽発見尺度(L)
外向性	.82**	.12	-.22
協調性	.42**	-.21	.34*
良識性	.02	-.31*	.27
情緒安定性	.21	-.62*	.14
知的好奇心	.22	-.15	.10

注) N = 43 \*  $p < .05$  \*\*  $p < .01$

3.3 性格と感情状態の関連性

Big FiveとMPIの性格検査の結果と感情状態の変化値の関連について、単相関分析と重回帰分析を用いて調べた(表8)。

3.3.1 Big Fiveと感情状態

単相関分析の結果、「十五年目の祝福」で協調性と抑鬱・不安との間に $r=.38$  ( $p<.01$ )、協調性と倦怠との間に $r=.31$  ( $p<.05$ )、良識性と倦怠との間に $r=.62$  ( $p<.01$ )、知的好奇心と倦怠との間に $r=.50$  ( $p<.05$ )の有意な正の相関があった。ただし、重回帰分析では協調性と倦怠との間には弱い関連はあったが、統計的に有意ではなかった(標準回帰係数 $\beta=.17$ ,  $p=.17$ )。

「七夕の雨」では、外向性と活動的快との間に $r=-.31$  ( $p<.05$ )の有意な負の相関、良識性と非活動的快との間に $r=.30$  ( $p<.05$ )の有意な正の相関があった。一方、重回帰分析では外向性と活動的快との間の関連は弱く( $\beta=-.18$ ,  $p=.27$ )、知的好奇心と活動的快との間に有意な関連( $\beta=-.29$ ,  $p<.05$ )が認められた。

「おかえりなさい」では、良識性と集中との間に $r=-.36$  ( $p<.05$ )、知的好奇心と集中との間に $r=-.39$  ( $p<.01$ )の有意な負の相関があった。

ただし、重回帰分析では良識性と集中との間の関連は弱く、統計的に有意ではなかった( $\beta=-.21$ ,  $p=.19$ )。

これらの関連の中で、特に相関の高かった「十五年目の祝福」の良識性と倦怠との間の散布図を示す(図2)。

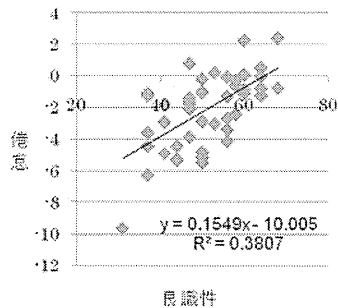


図2. 「十五年目の祝福」の良識性と倦怠 ( $r=.62$ ,  $p<.01$ ) の散布図 (N=43)

これらの結果から、3点の素材を通して良識性と知的好奇心の性格尺度が倦怠や集中の感情状態に影響を及ぼす傾向がみられ、次の2つの特性が示唆される。

- 1)良識性が高い性格の人ほど、倦怠を強め、集中を弱める
- 2)知的好奇心が高い性格の人ほど、倦怠を強め、集中を弱める

表8. 性格と感情状態の尺度の単相関分析及び重回帰分析の結果

素材	性格検査	目的変数 説明変数	抑鬱・不安		敵意		倦怠		活動的快		非活動的快		親和		集中		驚愕	
			β	r	β	r	β	r	β	r	β	r	β	r	β	r	β	r
十五年目の祝福	主要5因子 (N=48)	外向性	.08	.22	-.10	-.12	-.04	.02	-.15	-.21	.15	.09	-.14	-.06	.18	.12	.05	.16
		協調性	.36*	.38**	-.04	-.01	.17	.31*	-.14	-.22	-.16	-.04	.28	.17	-.09	-.10	.27	.23
		良識性	-.04	.03	.27	.23	.47**	.62**	-.00	-.07	.22	.12	.05	.06	-.11	-.17	-.23	-.17
		情緒不安定	.04	.11	.06	.05	-.09	-.11	-.03	-.05	.09	.08	-.23	-.17	-.19	-.18	.05	.10
		知的好奇心	-.09	-.07	-.08	-.02	.34**	.50**	-.13	-.14	-.15	-.11	-.29	-.23	-.13	-.14	-.03	-.07
	R <sup>2</sup>	.16		.08		.52**		.08		.07		.16		.10		.11		
	MPI (N=43)	外向性-内向性	.36*	.36*	-.19	-.19	.08	.08	-.20	-.20	.04	.04	-.05	-.05	-.02	-.02	.26	.26
神経症的傾向		-.25	-.25	-.29	-.29	-.13	-.13	.09	.09	-.11	-.11	.15	.15	.26	.26	.21	.21	
R <sup>2</sup>		.19*		.12		.02		.05		.01		.03		.07		.12		
七夕の雨	主要5因子 N=48	外向性	-.27	-.16	-.23	-.06	-.04	-.04	-.18	-.31*	.02	-.12	-.23	-.18	.05	.02	-.18	-.16
		協調性	.18	.04	.31	.24	-.05	-.04	-.19	-.27	.27	-.18	.24	.09	-.06	-.08	.02	-.01
		良識性	-.18	-.11	-.06	.08	-.00	.03	.25	.12	.40*	.30*	.09	.09	-.09	-.14	.20	.23
		情緒不安定	.20	.16	.14	.15	.03	.01	-.16	-.21	-.09	-.10	-.22	-.21	.02	.01	.04	.03
		知的好奇心	-.04	-.04	.17	.18	.19	.18	-.29*	-.28	-.09	-.05	-.24	-.20	-.15	-.17	.05	.08
	R <sup>2</sup>	.10		.13		.04		.25*		.18		.17		.05		.08		
	MPI N=37	外向性-内向性	-.03	-.03	-.24	-.24	.08	.08	-.29	-.30	-.27	-.28	-.35*	-.36*	-.26	-.26	-.17	-.16
神経症的傾向		-.46**	-.46**	-.21	-.21	-.20	-.20	.14	.14	.22	.22	.17	.18	.02	.02	.04	-.04	
R <sup>2</sup>		.22*		.10		.05		.11		.12		.15		.07		.03		
おかえりなさい	主要5因子 (N=48)	外向性	.28	.24	-.14	-.07	-.15	-.12	-.14	-.09	.18	.11	-.12	-.01	.04	-.02	.02	-.00
		協調性	-.13	.05	.11	.10	.03	.04	.10	-.02	-.09	.00	.31	.19	-.08	-.22	-.09	-.10
		良識性	.05	.07	-.07	.04	.07	.20	-.13	-.11	.22	.11	-.04	.00	-.21	-.36*	-.12	-.09
		情緒不安定	.14	.11	.19	.18	-.07	-.10	-.18	-.16	-.02	-.02	-.20	-.15	-.19	-.15	-.08	-.09
		知的好奇心	.18	.18	.20	.16	.25	.28	-.06	-.08	-.17	-.07	-.17	-.11	-.31*	-.39**	.11	.05
	R <sup>2</sup>	.11		.08		.11		.06		.06		.11		.24*		.03		
	MPI (N=41)	外向性-内向性	.19	.18	-.09	-.10	-.22	-.23	.07	.08	.13	.13	.01	.01	-.03	-.02	.01	.02
神経症的傾向		-.22	-.21	-.14	-.14	-.28	-.29	.03	.30	.10	.10	.16	.15	.33*	.32*	.27	.27	
R <sup>2</sup>		.09		.03		.13		.09		.03		.02		.11		.07		

注) βは標準回帰係数、rは相関係数、\* p < .05\*\* p < .01を示す



### 3. 3. 2 MPIの外向性、神経症傾向と感情状態

単相関分析の結果、「十五年目の祝福」では、外向性と抑鬱・不安との間に $r=.35$  ( $p<.05$ )の有意な正の相関が認められた。「七夕の雨」では、外向性と親和との間に $r=-.36$  ( $p<.05$ )、神経症傾向と抑鬱・不安との間に $r=-.46$  ( $p<.01$ )の有意な負の相関が認められた。「おかえりなさい」では、神経症傾向と集中との間に $r=.32$  ( $p<.05$ )の有意な正の相関が認められた(表8)。

これらの関連の中で、特に相関の高かった「七夕の雨」の神経症傾向と抑鬱・不安との散布図を示す(図3)。

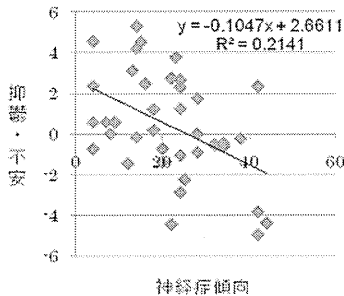


図3. 「七夕の雨」の神経症傾向と抑鬱・不安 ( $r=-.46$ ,  $p<.01$ )の散布図 (N=37)

これらの結果から、外向性、神経症傾向ともに一部の感情状態に有意な関連をもつことが示された。特に抑鬱・不安の感情をやや強める特性をもつ「七夕の雨」において、神経症傾向と抑鬱・不安との間に $r=-.46$  ( $p<.01$ )の相関が認められ、神経質で落ち着きのない人ほど抑鬱・不安の感情が弱まるという傾向が示された。

### 3. 3. 3 外向性と神経症的傾向によるグループ間の変化値の差

MPIの外向性と神経症的傾向は、一部の感情状態と有意に関連していたことから、外向性と神経症的傾向の尺度の得点を基準として、被験者をカテゴリーに分け、それぞれのグループ間の感情状態の変化値の差について調べた。

カテゴリー化は、『新・性格検査法—モーゼ

レイ性格検査—』<sup>14)</sup>を参考として、図4のようにMPIの外向性得点が18以下をE-型、30以上をE+型、神経症的傾向得点が18以下をN-型、30以上をN+型に独立して分類した。そして、それぞれのグループにおける8つの感情状態の変化値の平均に差があるかどうかについてt検定を行った。

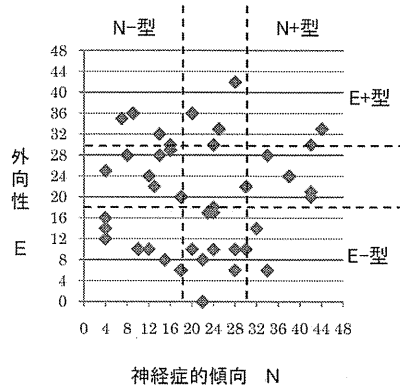


図4. 外向性Eと神経症的傾向Nによるカテゴリー(N=44)

その結果、外向性による分類では、「十五年目の祝福」の抑鬱・不安においてE+の平均が1.49、E-の平均が-1.42で有意差がみられた( $t=2.26$ ,  $df=28$ ,  $p<.05$ )。

一方、神経症的傾向による分類では、「十五年目の祝福」の抑鬱・不安のN+の平均が-1.93、N-の平均が.11で有意差がみられた( $t=2.29$ ,  $df=27$ ,  $p<.05$ )。「七夕の雨」では、抑鬱・不安のN+の平均が-1.58、N-の平均が1.71で有意差がみられた( $t=3.38$ ,  $df=22$ ,  $p<.01$ )。「おかえりなさい」では、抑鬱・不安のN+の平均が-2.07、N-の平均が.04で有意差がみられ( $t=2.30$ ,  $df=25$ ,  $p<.05$ )、倦怠のN+の平均が-2.39、N-の平均が-.77で有意差がみられた( $t=2.50$ ,  $df=25$ ,  $p<.05$ )。

これらの結果から、外向性よりも神経症的傾向の違いが感情状態の変化値の差に影響を与える傾向がみられ、神経症的傾向が高いグループ(N+)の方が低いグループ(N-)よりも抑鬱・不安や倦怠の変化値が減少することが示された。

#### 4. 考察

本研究では、性格と感情状態の関連性は素材によって異なる結果であったが、Big Fiveの結果からは特に良識性や知的好奇心の高い性格の人ほど、倦怠を高め、集中を弱める傾向が認められた。このことは、三和の先行研究<sup>3)</sup>とほぼ一致する結果となった。また、MPIの結果からは外向性よりも神経症的傾向が抑鬱・不安や倦怠という否定的な感情状態に影響を与える傾向が示された。今後、これらの関連性を情報検索システムに適用するには、どのようなメカニズムでその関連性が生まれるのかを説明できる客観的な理論が欠かせない。

読書には、専門書や参考書を対象として学習や知識の獲得を意図した読書と、小説などの文学的テキストを対象として楽しいや切ないなどの感情を得ることを意図した読書がある。特に感情を得ることを目的とする読書では、読者の既有知識や経験を基に推論しながら作品を解釈し、楽しさ、悲しさ、切なさ、怒りなど、様々な感情が生まれる。読者は、時代背景や季節感などの「とき」、風景や場面転換などの「ところ」を生き生きと想像し、登場人物の性格・心情や相互関係をつかみ、寓意や作者のねらい、ときには人生観などを含めた詳細で奥深い解釈を構成する<sup>15)</sup>。

本研究では、読書の対象として同じ感情的特性をもつ素材（短編小説）を選定したが、性格と感情状態の関連性はそれぞれの素材によって異なった。このことは、性格と感情状態の関連性は素材の感情的特性に依存するのではなく、小説を読んで意味を解釈し、そこから感情を味わう時の複雑な心理過程が影響していることを示唆する。性格と感情状態の関連性を説明できる理論を作り上げるには、悲劇、ホラー、不条理小説など、その内容を基準として素材を選定し、物語を構成する出来事の種類（展開パターン）、場面、登場人物など、テキストの意味内容の読解の心理過程を踏まえた調査・分析が必要である。

本研究の課題は、性差の問題も含めた標本数の不足である。また、MPIでは外向性と神経症傾向の強弱から9個のカテゴリーを定めることができる<sup>14)</sup>。標本数を増やすことで、より多くのカテゴリー別に性格と感情状態との関連性を明らかにできれば、外向性と神経症傾向を基準とした利用者のカテゴリー単位での関係式を適用した情報検索システムの設計も可能となる。

#### 5. おわりに

今後、小説などの文芸書はより電子化され、電子書籍の拡大傾向が継続するものと予想される。電子書籍では、小説を読んだ後の読者の感情状態について、インターネットを通して容易に収集することができる。そのデータを集合知として組織化すれば、小説を感情的な新しい視点で分類することも可能となる。また、利用者個々の読後の感情状態に加え、性格や嗜好を考慮したパーソナライズ検索が実現できれば、利用者により一層適した検索結果を提供できる、感情による図書検索システムを実現できると考える。

#### 注・文献

- 1) 中山伸一. 感情による図書検索システム. 人文学と情報処理, No.28, 2000, p.73-82.
- 2) "whichbook.net". (online), available from <<http://www.whichbook.net/>>, (accessed 2010-12-10).
- 3) 三和 義秀. 性格と感情の個人差に基づく図書検索システムの可能性: JIMS, Vol. 9, No. 1, (2010) pp. 59-76.
- 4) 三和義秀, 小林久恵. 小説を対象にした感性語の分類の基礎研究: 意味的類似性を基準として. Journal of Library and Information Science, Vol.17, 2003, p.27-37.
- 5) 小松幸子ほか. 感情表現語による図書検索

- のための基礎研究：読後感情評価に基づく図書分類の試み，図書館情報大学研究報告，1，17，63-75，1998
- 6) G.W. オウルポート. パーソナリティー心理学的解釈. 詫摩武彦他訳. 新曜社, 1982, 488p.
- 7) Eysenck, H. J., Dimensions of personality. London, Routledge and Kegan Paul, 1947, 308p.
- 8) Eysenck, H. J., Uses and abuse of Psychology. London, Penguin Books, 1953, 328p.
- 9) Eysenck, H. J., Fact and fiction in psychology. London, Penguin Books. 1965, 304p.
- 10) Gross, J.J., Sutton, S.K., & Ketelaar, T.V. Relations between affect and personality: Support for the affect-level and affective-reactivity views. Personality and Social Psychology Bulletin, 24, 1998, p.279-288
- 11) リンダブックス編集部編. 99のなみだ 涙がこころを癒す短篇小説集. 株式会社泰文堂, 2009, 236p.
- 12) 寺崎正治, 岸本陽一, 古賀愛人. 多面的感情状態尺度の作成. 心理学研究. Vol.62, No.6, 1992, p.350-356.
- 13) 村上宣寛, 村上千恵子. 主要5因子性格検査ハンドブック改訂版. 学芸図書, 2008, 312p.
- 14) MPI研究会編. 新・性格検査法—モーズレイ性格検査—. 誠心書房, 2009, p.259
- 15) 大村彰道監修, 秋田喜代美, 久野雅樹編. 文章理解の心理学—認知、発達、教育の広がりの中で. 2009, 273p.